

**愛知県部落解放運動連合会終結大会
愛知地域人権連合創立大会
議案書**

愛解連の社会進歩を担った歴史的役割に確信を持ち、21世紀に地域人権の確立をめざす新しい愛知人権連の誕生を祝う

2005年11月20日
名古屋クラウンホテル

愛解連第30回終結大会議案

「愛知県での部落問題の解決と部落 解放運動の歴史的教訓」

はじめに

愛解連は、社会問題としての部落問題の基本的な解決の到達点を踏まえ、部落解放運動の発展的転換をはかり、人権と民主主義、住民自治をめざす地域住民運動へ組織的改変を行うことにした。この新たな組織は愛知地域人権連合である。

愛解連は、この歴史的意義を踏まえ「愛知県での部落問題の解決と部落解放運動の歴史的教訓」を公表し、これまでの30年に及ぶ部落解放運動に幕を閉じるものである。

多くの人びとの献身と犠牲に心から感謝を申し上げ、新しい運動の創設に向けた我々の取り組みに引き続きご協力を訴えるものである。

一、どこまで部落問題は解決したか

1、部落問題の性格と解決の状態

愛解連は部落問題の性格規定及び部落問題が解決され

た状態を定式化してきた。

部落問題とは、封建的身分制に起因する問題であり、国民の一部が歴史的に、また地域的に蔑視され、職業、居住、結婚の自由を奪われるなど、不当な人権侵害をうけ、劣悪な生活を余儀なくされてきた問題をいう。

部落問題の解決とは、①部落が生活環境や労働、教育などで周辺地域との格差が是正されること、②部落問題にたいする非科学的認識や偏見にもとづく言動がその地域社会で受け入れられない状況が作りだされること、③部落差別にかかわって、部落住民の生活態度・習慣にみられる歴史的後進性が克服されること、④地域社会で自由な社会的交流が進展し、連帯・融合が実現すること、である。

2、四つの指標への見方

この四つの指標からみて部落問題解決の到達点はどこまでできているかを明らかにする。

第一の指標と係わって周辺地域との生活上の格差是正はどこまでできたか。

この到達点を解明する場合に少なくとも以下の内容を確認しておく必要がある。

①生活上の格差是正とは平均的水準を意味し、貧困の問題や失業の問題がなくなることでなく、周辺地域とは